

特別研修

月例研究会 議事録 (11 月)

2009 年度第 6 回

報告題名 国際コーヒー豆市場の展開と現状	
報告者 神浦友樹	日時 11月5日 午後3時～
(所属分野) 国際開発学分野	場所 第8講義室
座長 佐々木	議事録担当者 柳瀬
出席者 長谷部、安江、両角、米澤、米倉、冬木、川島、伊藤、石井、齋藤、鹿嶋、小山田、張、韓、スチン、ソ、柳瀬、宮本、安部、神浦、佐々木、福田、水木、宮里、渡邊、山下、泉井、遠藤、齋藤、鈴木、滝田、中村、水野	
報告要旨 コーヒー豆は19世紀半ばから国際貿易において重要な品目となり、一部の発展途上国にとって重要な輸出作物となっている。同時期からコーヒー豆は過剰供給による長期的な価格低下の傾向が観測されている。1963年には主に途上国の貧困対策の一環として国際コーヒー機関が締結され、加盟国によってコーヒー豆の価格を安定させる施策がとられてきた。しかし自由市場経済の進展に伴い、1983年には国際コーヒー機関による直接的な市場介入は廃止され、再び過剰供給と価格低下が起こっている。その一方で80年代後半から、インドネシア、ベトナムではコーヒー豆の増産が起こっており、コーヒー豆の価格低下に拍車をかけている。 今回の報告では、国際コーヒー市場の歴史的展開と現状を概観し、現状における問題点を整理する。また、近年コーヒーの生産量を増加させたインドネシアとベトナムについても概観する。	
質疑・応答 伊藤 ：スライド4の消費量について、中国、ロシアの値が年によって異なるのをどのように考えるか。 神浦 ：中国は、消費だけでなく、生産も活発である。このスライドに示されている消費量は実際の消費量ではなく、ネットの消費量を示しているため打ち消しあってこのような値になっている。ロシアは、生産の明確な増加があり、また国内の需要も高まってきている。 伊藤 ：コーヒー豆の市場の性格が今回の発表で見られるが、それを踏まえたうえで問題設定をしたほうがよいのではないかと。市場の性格をもっと捉えたほうがよいのではないかと。 神浦 ：競争性に変化があったのは、コーヒー協定が破綻したから。その前までは生産量と輸出量の調節が締結国内でできていたが、破綻後は輸出国同士の協調行動が行われずにより競争的な市場になっている。 長谷部 ：設定した課題と今回の発表のつながりを説明してください。 神浦 ：供給過剰や価格変動を国際協定によって安定させる方法もあるが、過剰生産事態が解決されるわけではない。過剰供給の解消、モノカルチャ依存の体制を変えるためにも、もっとミクロな視点から問題を見ることでより有意義な発見ができるのではないかと考えている。 米倉 ：コーヒーは、苗を植えてから、収穫までにどのくらいかかるのか。 神浦 ：4～5年です。 米倉 ：その4～5年の間、農家はどのようにしているのか。なぜ、ベトナムで伸びたのか。	

神浦：生活物資などの配給制度や補助金などがベトナムにはあるため。

米倉：では、政策的な要因で伸びたのか。

神浦：そうです。

米倉：なぜ、それをベトナムでできて、インドネシアではできなかったのか。

神浦：ベトナムは、社会主義国だから。

冬木：インドネシアは、ICA の縛りがあって、国家政策としてとれなかったからではないか。

石井：ブラジルなどの生産量拡大は、面積や品種など、何が一番の要因になっているか。

神浦：ブラジルは、生産面積の拡大によって生産量が拡大している。

安江：どのようなデータをどこでどのようにセットするか、計画はあるのか。

神浦：今は、まだない。

安江：これから、どのような計画で進めていくのか。

神浦：論文を 2 本立てですすめていて、ミクロで見えていくことが難しいなら、コーヒー国際市場の独占度の変化についての論文に取り組むことを考えている。